

# 社外の方からの評価

## 九州、日本、世界を包摂する企業としての取組み

九電グループは持続可能な、特に「誰一人取り残さない」包摂性を追い求めて挑戦を続けています。本報告書はその努力と課題を示し、社会と共有できる価値を創造する一歩です。内容の評価と今後期待したいことを述べます。

### <評価すること>

#### ゆるぎない基盤の構築とそれに支えられた 持続可能な安全文化の醸成

九電グループは経営ビジョンにおいて、事業目標を「2030年のありたい姿」(p.5)として定め、この実現に向けた戦略も踏まえ、具体的な取組内容を明示しています。「持続可能」の実践は、地道に積み上げてきた「知」とステークホルダーと共に作り上げた取組み(p.15-17)を必要としますが、随所にサステナビリティの概念を組み入れた工夫が見られ、CSRが実践されています。数値目標(p.16、51、62)は、SDGsの取組原則の柱である「透明性」(定期的にフォローアップできる目標の設定と検証)に呼応しています。

また、「原子力安全の取組みに終わりはない」との考えの下、社長をトップとした品質保証体制(p.37)、グループ一体での安全の取組推進(p.87-88)、災害に備えた訓練(p.27)、停電事故の未然防止(p.28)など、細部にわたる実践が展開されています。

#### 「九州から世界へ」を念頭にきめ細やかなサービスの充実

「地域特性を活かした、九州の持続的な発展」は九州を代表する企業に実現が求められる目標です(p.51-61)。インフラ充実に貢献を続け(p.53)、エネルギーサービスを通じた豊かな社会の実現は、九州を超え世界で取り組む必要があり、九電グループは地球規模の環境保全に貢献しています(p.20)。持続的な発展に必要な活動への理解と協力を得るため、ダムや発電所の見学、体験ツアー(p.53)、子どもや学生向けの「こらぼらQでんeco」や「Qでん★みらいスクール」(p.55)などは有効な広報活動です。また、猛暑や防災対策など付加価値の高い商品やサービスを考案・提供している(p.21、42-47)ことも評価できます。

### 地域とともに生き、成長する社員

今回特定した九電グループの「CSR重要課題」は、社内の意見に加えステークホルダーの期待や考えを反映し、客観性が担保されており(p.11)、CSRアンケート調査や「お客さまモニター会合」などを通じて社外の声を聴き、地域と「共に」問題に取り組む姿勢の表れです(p.13-15)。顔の見える営業やお客さまへの提案活動(p.45)も社員が地域と共に考えることの大切さを示しています。また、社員一人ひとりの知的探究心や問題解決力を向上させる「創造的基地『QBS-Lab』」の開設(p.64)や各種プロジェクトを通じたイノベーションの創出(p.63)も、人材育成を目指していることの証です。

### <今後への期待>

地域の多様化に応えるには、九電グループ自身が多様性を認め、推進することが求められます。女性管理職の増加(p.84)や働きやすい職場づくり(p.68-70)、新入社員教育(p.66、80)に加え、さらなるダイバーシティ対応を推進し、外国人や障がい者、高齢者の雇用・教育などを通じた持続可能な多様化社会のリーダーとなることを願います。

そして地域との双方向のコミュニケーション(p.75)はもとより、ダイバーシティ(=自分とは人と違って当たり前)を認め、グループ内の自由闊達な意見交換や問題解決に向けた議論を通し「共に」を重視して、経営ビジョンの達成に努める必要があります。経営理念「九電グループの思い」に「語り合う中から答を見出し、行動を」(p.4)とあるように、「合う」を強調した今後の事業への取組みに期待します。

西南学院大学  
教授(コミュニケーション学)  
みやはら あきら  
宮原 哲氏



## 評価を受けて

サステナビリティ報告書の信頼性向上と取組みの充実を図るため、西南学院大学の宮原教授に、客観的な立場からご意見をいただきました。

当社グループは、九電グループの思い「ずっと先まで、明るくしたい。」のもと、持続可能な社会の実現に貢献していくため、CSR経営を推進しています。近年の社会的課題の多様化・複雑化などを踏まえ、このたび、SDGsなどから幅広く抽出した社会的課題のうち、ステークホルダーの皆さまからの期待が高い「CSR重要課題」を特定し、この解決に向けた取組みを充実させていくこととしています。

今後への期待としていただいたご意見につきましては、次のとおり取り組んでいきます。

- ダイバーシティの推進については、女性管理職の新規登用目標(2014~2018年度)の大幅な達成(158%)や障がい者の職域拡大を通じた雇用促進など、社員一人ひとりが能力を発揮できる環境づくりに取り組んできました。今後、海外事業や新規事業の拡大などを掲げる経営ビジョンの実現

に向けて、他企業経験者や外国人など多様な人材の採用や、多様性を尊重する意識を育む研修などを通じて、更なるダイバーシティの推進に取り組んでいきます。

- また、組織内のコミュニケーション活性化に向けて、九電グループ一体となった社員教育や、イノベーション創出を図る「KYUDEN i-PROJECT」などグループ横断の取組みを通じて、多様な人材が活発に「語り合える」組織風土を醸成していきます。

当社グループは、今後もCSR経営を推進し、地域・社会の皆さまとともに、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

九州電力株式会社  
代表取締役 副社長執行役員 CSR担当  
やくしん じ ひでおみ  
薬真寺 偉臣

